



技術を駆使したハサミさばきで一人一人の希望に応える

居心地のいい空間の提供 それが理容師としての役目

佐々木 太一さん (27 歳)
＝胆沢区小山字峠＝

ささき・たいち◎昭和 61 年胆沢区小山生まれ。カットハウスイン310（江刺区大通り）にスタイリストとして勤務する理容師。平成 21 年技能五輪全国大会で金賞に輝く。現在は勤務の傍ら後進の指導に当たっている。両親との 3 人暮らし



「日本一になるまでには、大変な苦労がありました」と語る佐々木太一さん。指導者の熱意と、さまざまな人たちの支えがあつてこそ受賞することができたと、周囲への感謝の気持ちを明かす。

昨年、大会出場という第一線から退き、今では勤務の傍ら後進の指導に当たる。自分自身が指導を受け、同じ形で後輩たちに返す。そして、その思いは脈々と受け継がれていく。「お客さまに満足していただきたい。そして、今も未来もお客さまの笑顔を大切に」と熱く語る太一さん。「ことし 4 月に自分の店を水沢にオープンします」と新たなステージへの挑戦に情熱を燃やす。



くまがい・たすく◎平成 2 年衣川区夏梨生まれ。水田 1.2ha、牧草地 13ha のほか、黒毛和牛約 100 頭を飼養する繁殖肥育の一貫経営農家。北海道の酪農学園大学を昨年 3 月に卒業し、そのまま実家に就農。父、母、弟、祖父、祖母の 6 人家族。彼女募集中



自分の目で毎日欠かさず牛の状態を確認

農業の印象を変えたい そして地域を盛り上げる

熊谷 翼さん (23 歳)
＝衣川区夏梨＝

「小さいころから牛舎が遊び場でした」と語る熊谷翼さんは、自家で飼養する牛と触れ合ってきた。子どもたちから子牛市場などにも出向き、畜産の現場を肌で感じることができ環境で育った。

小学校から高校までサッカー一筋だった翼さん。大学で本格的に畜産を学び、家畜人工授精師の資格を持つ。父もその資格を有しており、現在、父の指導を受けながら勉強中。牛の飼養技術に関しては、祖父からその経験を少しずつ学んでいる。

「夏場はほとんど休みがないですね」と語る翼さんは「故障牛を少なくし、上物率をあげたい。そして経営規模の拡大が目標」と夢は膨らむ。

一輪車の演技の魅力 その素晴らしさを広めたい

初貝 香純さん (23 歳)
＝前沢区生母字二子＝

発表会に向け指導にも熱が入る



前沢海洋センターアリーナに、音楽に合わせた一輪車のグリップ音が響く。一輪車クラブ「アルスノーバ」で熱く指導する初貝香純さんが、一輪車に出会ったのは小学 2 年。当時は、一輪車を介して、友達と触れ合うのがとても楽しかった。そんな中、小学 6 年のとき初めて全国大会に出場。その感激は今でも忘れられない。

高校のころからすでに後輩の指導を行っていたが、正式にコーチとなつて 5 年が経過した。「まさか全国大会で優勝するとは——」と語る香純さんは「レベル的にはまだまだ。ことしも確実に全国で入賞できる力を付けさせたい」と、今後も一輪車の魅力を伝え続ける。



はつがい・かすみ◎平成 2 年宮城県仙台市生まれ。昨年 9 月の全国大会で総合優勝を果たした一輪車クラブ「アルスノーバ」でコーチとして指導に当たる。自らも小学生のころからクラブに所属し経験を積んだ。家族は父、母、姉、妹、祖父、祖母



取材を終えて――

「市民の皆さんに元気を届け、少しでも奥州市に活力を生み出すために、市広報で何が出来るだろうか」。私たちは、常にその命題を掲げ、企画から取材、そして編集を進めています。

今回、新年号の発行に当たり、今を輝く元気な若者たち 6 人にスポットを当て、皆さんにお知らせすることに。取材を進める中、年齢に関係なく、それぞれが自らの目標に向かって努力する姿を垣間見ることができました。自らの夢や与えられた使命を自らが理解し、時には迷いながらも、その目標に向かって突き進む「若い力」は、私たちに感動をもたらし、私たちの気持ちに潤いを与えてくれます。

そんな一生懸命努力する若者たちを、私たちみんな応援しましょう。それが本市に活力をもたらし、必ず本市の発展につながっていくと信じて――。